

第104号/ ふじのくに静岡県

消防学校 ニュース



令和2年3月号

消防職員専科教育救急科(第29期)

後編

救急科第29期121人は、年が明けてすぐの令和2年1月7日(火)に入校し、様々な分野の専門家の方々から、救急隊員として必要となる高度で専門的な知識と技術を学び、2月28日(金)をもって無事に修了を迎えました。

今回は2月に実施した外因性・内因性シミュレーション訓練の一部を紹介します。

内因性シミュレーション

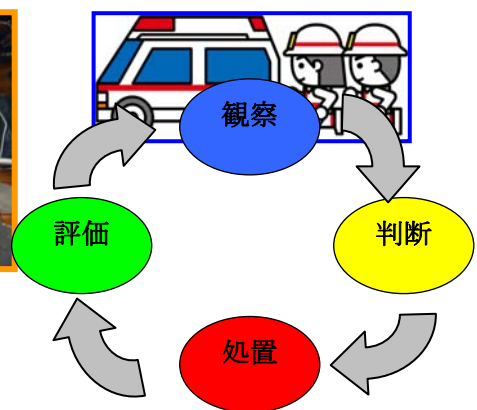
傷病者の症状や訴えから、病態の推測と必要な処置を行うとともに、適切な傷病者対応・接遇・隊員間の連携等、救急隊員に必要なスキルを向上させる!



救急現場で見逃してはいけない、緊急度・重症度の高い内因性疾患のシミュレーション訓練を10想定実施した。



指令内容を確認! 病態を推測して、使用資機材を確認する。



ご家族の方
どのように倒れましたか？



外因性シミュレーション JPTEC

“防ぎえた外傷死” (preventable trauma death)
を防ぐ為のスキルを習得！



合言葉はロード&ゴー

救助活動中は、常に頸椎保護を実施する。
傷病者の予後も見据えた活動が求められる。

ムラージュ (特殊メイク)
で傷病者を再現。もしくは！



担当から修了生へ

現在の消防活動において、医学的な知識は欠かすことはできません。今回学んだことを活かして、最前線の救助隊員として最善の救助活動をプランニングできる隊員を目指すのも良いですし、更なるスキルアップをして救急救命士を目指すのも良いと思います。ここで得たものをそれぞれの立場に活かしてください。

大事なことは、傷病者に寄り添える隊員になることです。皆様の飛躍を期待しています。

教務課主査 丸子修平 (富士山南東消防本部より派遣)

消防職員専科教育火災調査科(第44期)

火災調査科第44期54人は、3月2日(月)から2週にわたり教育訓練を受けました。入校した学生は熱心に受講し、3月13日(金)に修了式を迎え、本年度の本校における教育訓練を見事に締め括ってくれました。

今回の受講者のうち消防職員は40人(16消防本部)で、残りの14人は警察職員(静岡県警察本部)です。この火災調査科は、平成25年度から警察職員を受け入れ、合同研修という形で実施しており、合同ですべての課程を受講しました。消防の「調査」と警察の「捜査」は目的が異なりますが、火災原因を究明し、ともに安心・安全なまちづくりを目指すことに変わりはありません。

(担当の中村一二三教官から)

学生は本科において火災調査に関する専門的な知識・技術の修得はもちろんのこと、入校生活では様々な情報交流を行い警察、消防の連携強化に努めました。本科で学んだことをそれぞれの職場で活かして頂き、今後の活躍を期待しています。

「講義の様子」



「製品火災鑑識要領」



「車両火災見分要領」



「模擬火災演習」

退任教官表彰状授与式

3年間、ありがとうございました

令和2年3月19日(木)校長室で退任教官表彰状授与式が行なわれました。県下の消防職員や消防団員等の指導育成を図るため、教育訓練に貢献した消防学校の教官に対して学校長から表彰状が授与されました。

(塩崎校長から)5名の退任教官の皆様、3年間、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。単身赴任、遠距離通勤など厳しい生活の中で、県内の消防力向上のための教育訓練に全力で、そして真摯に取り組んでいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

4月からは、お体にはお気をつけいただき、消防の第一線で、県民の生命財産を守るという崇高な任務の遂行のためにご活躍ください。そして、ずっとわが消防学校の最高の応援団でいてください。



- 右から
諸星大輔教官
(駿東伊豆消防本部から派遣)
永田佳寛教官
(磐田市消防本部から派遣)
高瀬紘士教官
(富士市消防本部から派遣)
松尾晋明教官
(浜松市消防局から派遣)
宍井一滋教官
(湖西市消防本部から派遣)

塩崎ぜっ校長

ワンチョット(チョイネタ)コーナー
今月のつぶやき

3月の消防学校

3月の朝、学校の管理教育棟の前に立ち、外を見る。
興津川の東には、高くはないが山々が連なっている。
北から標高700mの浜石岳、なだらかな稜線を下り標高250mの薩埵峠まで。
さらに南に目を移すと伊豆半島がはっきりと見える。土肥あたりか？
空は青く、空気はひんやりとして気持ちよい。今日もいい天気。大きく背伸びをする。
この時期の学校は初任科学生がいないので静か。
今は、専科教育の救急科と火災調査科の学生が教育訓練に明け暮れている。
今年度も残すところ、あとちょっととなった。
いろいろあったが、ここまでなんとか無事に過ごすことが出来た。
興津の山々の神様、見守ってくれて本当にありがとうございました。
新年度も無事で充実した日々が過ごせますように。

通勤はきつい？

今年の正月、同年代の友人から年賀状が来た。
そこには「毎日往復110kmを東名を利用し車で通勤してます」と書いてあった。
大変だなあ、偉いなあ。実は、私も昨春、消防学校に転勤が決まった時に車通勤を決意。
すぐに近くの修理工場でパステルカラーの可愛い軽の中古を買って使おうと考えた。
妻から「色が派手すぎる、あなたには不釣り合い」と反対にあい、
とりあえず様子見にして、自家用の12年落ちの軽（ニックネームは「ターボ君」だ！）で通勤してみた。
4月1日、静岡市内から静清バイパスを使い片道約50分、途中、何箇所か渋滞あり。
車の運転が苦手な私（運転開始10分で眠くなってしまう）は職場に着いた時は、とても疲れてしまった。
2日目もまったく同じ。これは無理だ！安全安心を考え、リタイヤ。
かくして私の自動車通勤は、2日で終わった。車を買わなくて大正解。
今では、毎日、車通勤より30分早く起きて、電車に揺られ、睡眠通勤している。
感染症等への注意はもちろん必要ではあるが、電車に運んでもらうって、私にとっては本当に気楽であり
がたい。

オマケも
ぜっ校長だ
よ！



グラウンドの訓練を見守る校長（地元の園児とともに）

次号は、ついに第91期初任
科生が入校するよ！
入校式などの様子をお届け
します。乞うご期待！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX; 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

